



自然な老後が 迎えられる環境を

自然に老い、自然に最期を迎える。当たり前のように感じて難しい課題だ。介護付有料老人ホームとしては老舗の「悠楽里えどがわ」「悠楽里えどがわグリーンパーク」では、そんな自然な老後を迎えられる環境に心血を注いでいる。

悠楽里えどがわ & 悠楽里えどがわ グリーンパーク

医療機関、ご家族と一体となつて、『自然な死』を迎えられるよう、看取りの為にご家族が宿泊できるゲストルームも設けています(関さん)。ある入居者家族からは、最後まで看取ったことに対する「感謝状」をいただいた。

入居金の初期償却を廃し より利用しやすく

一方で、「ホームは生活の場」と位置づけ、生活支援においても個別対応を徹底する。さらに、地域住民の和太鼓・フラダンスの発表会などもホーム内で行っているという。

より利用しやすくするため、月額利用料を据え置いたまま入居金の初期償却を廃止、別途入居金0円のプランも用意した。自然な老後を満喫できる環境が、ここにある。



日本庭園からの陽光が心地よい、悠楽里えどがわのラウンジ



広々とした空間が広がる、悠楽里えどがわグリーンパーク1階のロビー

悠楽里えどがわ

緑地、川、図書館 生活が豊かになる環境

外出時等に対応してくれる、1階のフロント

元はホテルだった建物を改築したという、悠楽里えどがわ。特徴的なのは立地環境の良さだ。正面玄関から道を一本渡れば、そこは緑の空間。

江戸川区総合文化センター前の広大な緑地で、入居者はくつろぎの時間を満喫する。「レクリエーションタイムには、緑地で体操をしたり、お花見をしたり。また、文化センターの裏手には川沿いの親水公園があり、散歩

場所には事欠きません。また、近くの街道沿いには図書館もあり、日中、読書を楽しまれる入居者の方も多いですね」(関さん)

バスを使えばJR総武線新小岩駅からもほど近く、都心からホームへのアクセスも良好だ。

介護面では、入居者数2人に対して介護職員数1人の体制で、きめ細かいケアを行う。また、内科・歯科・皮膚科の訪問診療も実施されている。レクリエーションやイベントも頻繁に行われるが費用は無料。良好な環境、スタッフや地域との密なコミュニケーションの中、自然な生活を楽しむことができる。



明るい色調で形作られたエントランス



悠楽里えどがわグリーンパーク

明るく広い共有空間が 対話を生み出す

悠楽里えどがわから約200mの場所にある、悠楽里えどがわグリーンパーク。元々オフィスビルだった建物を、鉄骨を除去すべ取り壊し、新築として作り替えた。そのため、悠楽里えどがわで培った介護ノウハウと想いを活かした設計が可能となった。

「1人用個室を18〜20㎡と広くとり、また、フロアの中心にヘルパーステーションを置くことで全体を見渡せる作りにしました」と関さん。1フロアの居室数を14室に抑え、ゆったりとした生活空間を確保した。

最も気を使ったのが、共有スペースだという。各階の南

2つの方角に窓を設けた、広い居室



各階に設けられたラウンジ。緑と空をイメージしたデザインとなっている